

稲沢市学校施設整備基本計画説明会

日時 令和7年1月13日（月・祝）

午前10時～11時55分

場所 稲沢市勤労福祉会館

多目的ホール

1 教育長あいさつ

2 稲沢市学校施設整備基本計画について（事務局から説明）

3 質疑応答（質問要旨及び回答）

Q 明治地区 男性

- ① 計画名称を学校統廃合計画ではなく施設整備基本計画とした理由を説明してほしい。また、「説明会」というと、すでに決まった計画を説明するように受け取ってしまうが、なぜ「説明会」としたのか説明してほしい。
- ② 百年以上続いた学校を本当に潰す覚悟があるかお聞きしたい。

A 事務局

- ① 計画は統廃合だけを記載したものではなく、子どもたちのよりよい教育環境を整備していくために、どういった学校を整備していくべきかという内容が中心にあって、そのための方法論の一つとして統廃合が含まれていますので、計画名としては学校施設整備基本計画とさせていただいたものです。説明会ということについては、計画自体は昨年8月の教育委員会で正式な計画として承認されており、今回は出来上がった計画を説明させていただく場として開催させていただいていますので、説明会とさせていただきました。
- ② 少子化の現状はここ百年でなかった、今までに直面したことがないような状況になっています。こうした中で、子どもたちのより良い教育環境を整備していくために、教育委員会としては学校再編・統合は避けては通れないものと考えていますので、ご理解いただければと思います。

Q 千代田地区 男性

- ① 教員を38年やってきて、この統廃合計画の根底にある考え方が疑問。1学年1学級の教育は成果が上がらないという発想になっていると思う。全国で1学年1学級の学校はほぼ半数だと思うが、稲沢は1学級のところは統廃合の対象にするというところが大変教育的に危ういと思っている。学校規模だけの問題ではなくて、教育の中身がどうなのか。施設整備基本計画といいつつ、中身のところにも入り込んでいる。実際は中身が問題なのに、そういうところが、私はとても気になってい

る。この計画は根底的に根拠が乏しいと思っている。質問ではなく、意見。

Q 祖父江地区 男性

- ① 祖父江地区だけ1校または2校という計画になっているが、1校または2校にするということは、いつ決めるのか。具体的にこういう条件だから決めたということ、早急に決定して市民に知らせてほしい。
- ② 小中一貫校について、進学に有利と思っている保護者が少なくない。一方で、小中学校は市民の税金で設置、運営されているものなので、平等に教育を行うことが求められる。しかし、例えば千代田で一貫校を造って、祖父江、平和で一貫校を造らないと、平等とは言えない。計画は一貫校にするのかしないのか、定かでない。これは保護者にとってはすごく大事なことで、千代田が仮に一貫校になったら、皆そちらのほうに行こうとする。そうすれば平和や祖父江は、さびれていく。だから、小中一貫校についての方針を早く決めて、市民に知らせるべきではないか。
- ③ 学校再編で廃止となった学校の跡地利用は大きな土地なので都市計画審議会に諮るような中身なのに、計画では仮称地域協議会をつくって、そこで合意形成を図りますという。避難所についても、計画を見たら教育委員会が単独で地域と合意形成を図るようにしか解釈できない。教育委員会にそんな権限があるのか。例えば避難所は、防災安全課を抜きにして地域と合意形成はできないだろう。学校跡地も市有財産なので、管財課は関係ないのか。
- ④ 地域の理解と納得のもとにやると言っているが、何をもって、理解と納得が得られたと判断するのか。いつ、誰が判断するのか。

A 事務局

- ① 祖父江地区について6校を1校または2校としているのは、令和11年度時点の推計では2校でも標準規模を保つことが可能ですが、例えば令和15年度、16年度になった時に、少子化が更に進み、1校でなければ標準規模を保てなくなる可能性があることから、学校再編・統合の時期により2校または1校と記載しているものです。この判断は、再編・統合に向けて動き出した時点の児童数推計を見ての判断になり、現段階で明確な時期は申し上げられませんのでご理解ください。
- ② 小中一貫校につきましては、教育委員会として市全体を小中一貫校にする、もしくはしないということは決めておりません。計画に記載のとおり、学校整備の段階で地域の方のご意向も伺いながら、判断してまいりたいと考えております。
- ③ 教育委員会所管外に係る合意形成については、計画に「市全体で検討します」と記載しており、必要に応じて防災であれば防災安全課など市長部局の担当課にも入っていただいて、検討しながら進めていく考えです。
- ④ 理解と納得が得られたかどうかの判断については、説明会を重ねる中で、再編・統合については賛否両論ありますが、学校施設の老朽化、少子化が進んでいく中で、子どもたちのより良い教育環境の整備のために、再編・統合された場合、こういった課題があるかということについて検討していくことは必要ではないかというご

意見が、一定程度出てきた段階で、再編・統合の必要性については理解と納得が得られたと判断させていただき、事務局から地域の皆様方に仮称地域協議会の立ち上げに向けたお声がけをさせていただければと考えています。

A 教育部長

- ① 先ほどの質問につきまして、令和6年6月議会の一般質問で答弁させていただいていますので、そのことを説明させていただきます。教育委員会ですべて決めるのかという点につきまして、「教育委員会で計画案が承認され、地域の理解がある程度進んだ段階で、学校再編に向けて市長部局も含めて市全体で横断的に取り組みを進めていくのはもちろん、保護者や地域の声にも丁寧に耳を傾けながら学校再編という大きな事業が円滑に進むよう尽力してまいりたいと考えております」と市長が答弁しておりますので、跡地利用などは市全体で検討していきたいと考えています。
- ② 理解と納得の件ですが、これは令和6年12月議会で答弁しております。「地区の説明会を重ねていく中で、再編・統合について賛否両論があるが、施設が新しくなるのであれば再編・統合された場合の課題について検討しても良いのではないか」という意見が一定程度出てきた段階で、必要性については理解と納得を得たと判断し、地域の方に地域協議会の立ち上げに向けた声がけをさせていただきたいと考えています」という形で答弁しています。全員の方の意見が賛成になるということとはなかなかありませんので、ある程度必要性については理解したとの声が地域の方から出てきた段階で地域協議会を立ち上げていきたいと思っています。

Q 稲沢地区 男性

- ① 地域で一定の理解が得られたら地域協議会を立ち上げるというが、地域の中には賛成、反対の人もあるわけで、そこを無視してすぐに協議会を立ち上げる、そういう意味であれば、計画の記載内容と説明が違ってくる。全国の統廃合を研究されている大学の先生の話では、子どもたちのストレスがものすごく、丁寧にやらないと、いじめや不登校が起こる確率が多いそうだ。その先生の話では、もしやるとしたら、まったく新しい所に校舎を建てて、新しい学校名、新しい校歌、新しい校章を作らないと、子どもたちの中に差別が生まれるというふうにおっしゃっていた。地域の合意を得るというのであれば、今日の話もきちんと伝えて、住民投票をやる、またはアンケートを全員から取る、その中には子どもたちの意見や権利も保障するという事でやっていただきたい。

A 事務局

- ① アンケートも地域の皆様のご意見を伺う手法の一つだと考えます。ただ、それ以外にもこのような説明会やワークショップのような形式でご意見を伺うなど、様々な方法があります。学校再編・統合は、なぜ再編・統合が必要なのかという背景も含めて総合的に判断していくべきで、単純に賛成・反対の2択で判断すべきことではないと考えています。説明会や協議会等で意見交換を重ねていく中で、な

るべく多くの皆様のご理解を得られればと考えています。また、子どもの意見については、教育委員会も子どもの意見は大事だと考えており、例えば学校を再編・統合していく際に、再編対象校の学校同士の事前交流や、そこで行われていく教育などについて、子どもたちの意見を聞いていきたいと考えています。

Q 祖父江地区 男性

- ① 祖父江地区は 6 校を 1 校または 2 校と言われたが、人数が増えれば 3 校というのはあり得るのか。人口を増やすために、稲沢市はどんな政策をやったのか。
- ② 2.5 キロ以上の場合スクールバスを利用すると言われたが、どこに建てるのか、その場所が具体的には決まっていないので、住民は 2.5 キロといっても自分たちの地域がどの範囲になるかわからない。2.5 キロというのは地図上の一直線の 2.5 キロなのか、道伝いで来る 2.5 キロなのか。
- ③ 通学路について、歩道がない場所は歩道を造っていただいて縁石やガードレールで区分するなど安全対策が必要だ。アンケートで90パーセント以上の父兄が心配されているのは、安全第一ということなので、その辺を聞かせていただきたい。
- ④ スクールバスを、突然廃止しますということはないのか。やります、やりますと言っておいて、1 年も経たないうちに廃止しますということがあってはいけない。

A 事務局

- ① 3校はあり得るのかというご質問ですが、計画では建て替えを機に標準規模化を図るということを前提としています。3 校とした場合、いずれかの学校が標準規模を満たすことができませんので、3 校での整備は考えていません。
- ② 2.5 キロは実距離か直線距離かにつきましては、実距離です。
- ③ 歩道等の整備はじめ通学路の安全確保策については、協議会が立ち上がった際に、例えば通学路部会のようなものを編成し、児童や保護者の方等にも協力をいただきながら実際に歩いてみて、危険箇所等があれば、市長部局とも連携して、適切な安全な通学路となるよう整備を図ってまいりたいと考えています。
- ④ スクールバスが短期間で廃止されることについては、事務局としてもあってはならないことだと考えています。

A 事務局(補足回答)

- ① 人口減少対策につきましては、教育委員会でできることは限りがありますので、市全体で取り組んでいます。例えば、市街化調整区域であっても下水道整備区域に住宅が建てられるように条例を制定したり、また子育て支援、保育や給食費などを手当てしたりして、対策を打っていますが、日本全体で人口減少が進む中、なかなか稲沢市も回復してこないというのが現状です。
- ② もう一つ、学校をどこに建てるかというご質問がありましたが、これにつきましては計画にも記載のとおり、市有地又は既存の学校敷地を第一候補地として地域と協議しながら検討していきますので、具体的にはまだ決まっておりません。

Q 祖父江地区 男性

- ① この計画は令和6年8月の教育委員会で承認されたということだが、パブリックコメント時の案から変更が数か所ある。その一つに、小規模校のメリット、デメリットを同数にするという意見が採用されて、この計画にもそのように記載されている。例えば、「教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である」というふうに小規模校のメリットが追記されている。しかし、一人一人に掛かる費用は市全体で見たら、小規模に分けていくのと大規模に集約するのとで変化するものではなく、この計画にそれをメリットとして記載する意図がわからない。この項目はそもそもどういった議論で修正したのか教えていただきたい。
- ② 12年前に公共施設再編に関する考え方というのを稲沢市は出しており、そこで、公共施設の再編を進めるにあたって、「将来の危機感を市民の皆様に訴え、改革の必要性を丁寧に説明し、皆様のご理解を得ながら1歩1歩着実に実行していきます」と書いてある。財政が危ないということは12年前から言われているが、この計画では、教育委員会なので子どもの教育のためにいいものを整備していくということは記載があるが、その背景にある財政のひっ迫具合について説明が十分されていない。建てる費用だけが出されているが、それ以外にも維持費などもあると思う。そのあたりの今後の説明についてどのように考えているか。

A 事務局

- ① 確かに、タブレットPC等は児童一人一人に配付されるものですので、小規模校でも標準規模校でも市が負担する費用は大きくは変わりません。そのため、パブリックコメント時の案ではメリットとして記載していなかったのですが、小規模校で行われている教育は決して悪い面だけでなく、小規模であることを生かしながら、そこでも優れた教育が行われていることを大切にしたいというご意見が多くあり、それらを教育委員会の中で協議していく中で、あまりデメリットのほうが目立ち過ぎると、そのあたりの誤解を招くのではないかという慎重なご意見もいただきましたので、最終案では小規模校のメリットとデメリットが同じ数になるように修正させていただいたものです。
- ② 施設の維持管理費も含めた財政的な説明については、計画では32校すべてを建て替えることはできないという視点から財政的に厳しい状況にある、また維持管理費も年々増加しているということを課題として触れているものの、詳細な財政シミュレーションまでは記載していません。その理由は、実際に計画が進んでいかなければ、何にいくら掛かるという点も明確にならないからで、例えばスクールバスの導入費用は、再編の構想がある程度固まって、バスが何台必要か、どういったコースを走らせるかといったことが決まって初めて詳細な費用が導き出されますが、現段階では未確定の要素が多く、根拠のある算出ができません。そのあたりも踏まえて、数字が出る段階になれば地域の方にも情報を出していき、検討材料にしていいただければと考えています。

Q 千代田地区 男性

- ① 田代の自治会で統廃合についてのアンケートを取った。田代地区は380軒ほどあるが、統廃合はしないでほしいという意見が 86.4 パーセントで、統廃合してほしいという意見は、わずか 2.6 パーセントだった。さらに、坂田小学校が千代田小学校に統廃合されることについて、意見があれば自由に書いてくださいと回覧板で回覧した結果、257 件の意見があり、その中には「田代は小学校が近くにあることに魅力を感じ、引っ越してきました。引っ越してきた後で、坂田小学校が廃校になる話があることを知ってびっくりしました。この話を知っていれば、ここを選びませんでした。また、稲沢市は子育て・教育は稲沢市でと謳っているにも関わらず、子どもたちの教育に欠かせない小学校を減らそうとするのは矛盾していませんか」という意見もあった。賛成の意見も少しあったが、多くは反対意見だった。これを受けて、私たちは坂田地区で陳情書を作って、教育長に令和6年1月に持って行った。少し懇談もさせていただいたが、陳情書に対する具体的な回答はなかった。感想でもいいので、陳情書をどのように読まれたかということ、私たちの切実な声についてどう考えているかを教えてほしい。
- ② 田代団地は半径2キロ以内に店舗がなく、本当に孤立した地域だ。田代よりさらに南の氷室は、統廃合されて千代田小学校になったと仮定して、千代田小学校まで歩くとなると 2.5 キロ以上ある。そうすると、氷室だけスクールバスが走って、田代は走らないとか、その辺がどうなるのかお聞きしたい。
- ③ 田代地区の総意として統廃合しないでほしい。かつて、田代の地域、坂田に分校が40何年前にあったが、分校を設置する考えはあるのか。

A 事務局

- ① 地区で取られたアンケートは、事務局も目を通させていただいており、その結果は参考にさせていただきますが、教育委員会としては学校再編・統合は将来の教育環境を考えたときに避けて通ることができないものと考えています。アンケートの結果、86.4パーセントの方が反対の意見だったということですが、例えば学校老朽化の状況や、今後少子化がどのように進んでいくのか、そういったことをまずは十分に説明させていただきたいと考えています。学校が近くにあったほうがいいのか、遠くにあったほうがいいのかと言えば、誰でも近くにあったほうがいいですし、長年通ってきた学校がなくなるのは寂しいという気持ちもよく分かります。しかし、学校再編・統合が避けて通れない状況まで来ているということを事務局から地域の方に丁寧に説明させていただくことで、今80パーセント以上おみえになる反対意見の方に、少しでも賛成していただけるように努めてまいります。
- ② スクールバスについては、計画に記載のとおり実距離2.5キロを基準として細部は地区の中で協議させていただく形になります。地区の皆さんと、よりよい通学の方法を検討していきたいと考えておりますのでご理解ください。
- ③ 3点目の分校の設置につきましては、現時点では考えておりません。

Q 祖父江地区 男性

- ① パブリックコメントを分析すると主要2項目は「防災」と「都市計画」だ。この点について昨年の説明会でも質問があったときに、「教育委員会の管轄ではないのでお答えできない」という回答だった。いかにも役所のセクト主義的な回答だが、市民にとっては非常に重要なテーマなのに、教育以外の要素は誰が回答するのかあいまいな説明だった。今後の検討の方向性を何も言わずにファジーな表現で、皆さんと協議しますというのは納得できない。計画は防災の部分もあるし、都市計画の部分もあるので、その責任部署を明確にし、協議会では必ず副市長が出ますとか、総務部長にやらせますとか、説明会前に教育委員会で協議していく責任があった。ところが、協議をしないで、1年前と同じ表現、地域協議会の中で協議を進めますという。これでは、皆さん納得されない。その点をどのように考えるか。

A 事務局

- ① 防災や都市計画に関する部分は教育委員会の所管ではないので知らないということではありません。少し前の質問で、逆にまちづくりや防災について教育委員会が決めることができるのかという質問がありました。それと同じ話で、教育委員会が所管しない部分を教育委員会だけで決めて計画に載せることはできない。そのため、昨年度の説明会でも所管外の部分は教育委員会で回答はできませんとお答えしています。教育委員会所管外の部分については市長部局と連携し、市全体で取り組んでいくということは、先ほどの質問でもお答えさせていただきました。市全体で取り組んでいく際に、市長部局のどの職員が対応するか、先ほど例として副市長や総務部長が挙がりましたが、現時点でどのレベルの職員が出るかということまでは決定していませんので、ご理解いただければと思います。

Q 祖父江地区 女性

- ① 国を挙げて少子化対策が行われ、若者を支援する政策がとられている中で、子どもの数が増えるということは考えていないのか。子どもが減る一方だということなのでこの計画を進めているが、増えたらどうするのか。市でも人口増加計画はあるというが、それは市の中央部だけで、祖父江地区や平和地区、千代田地区など周辺部は見捨てられていると言う人もある。周辺部を支援して、転入者を少しでも増やしていく気があるのか。

A 事務局

- ① 昨日、二十歳の集いがありました。稲沢市の今年の対象者は約1,300人でしたが、これが20年前に生まれた児童の数です。しかし、令和6年に生まれた児童は800人を割るような数字になっており、この20年でも児童数は大幅に減っています。こうした中で、少子化対策は早急に取り組まなければならない喫緊の課題であり、本市も県内初や東海初など様々な子育て支援施策を行っています。そうした効果もあってか、本市の社会増減、転入転出の差し引きは、令和5年、令和6年ともに社会増となっています。では、なぜ人口が減るのかというと、自然減が理由

で、亡くなる方に対して、生まれてくる子どもが少ないことが影響しています。人口増に向けた取組は市としても引き続きやっていかなければなりません。その効果が出るまで学校再編・統合を待てる状況ではありません。学校再編・統合した後で将来子どもが増えたらどうするのかというご質問でしたが、子どもが増え既存の学校で対応できなくなれば、当然新しく学校を造ることになります。しかし、現状、親になる世代が既に大きく減少しており、仮に出生率が急上昇して、1人の女性が子どもを2人以上生んだとしても、そもそも母親になる女性の母数が少ないので、向こう 20 年、30 年で劇的に人口が増えていくということは考えられません。そうした中で、一度学校を建てたら80年は使っていかなければならない、そういうこともよく考えていく必要があります。

Q 祖父江地区 女性

- ① 市内の人口は平均的ではなく、地区によって異なるので、学校を同じ規模にする必要はなく、人口が少ない所は標準規模の学校でなくてもよいのではないかと。
- ② 説明会に若い方が来てもらえるように、もっと市から PR してはどうか。

A 事務局

- ① 小規模な学校は小規模な学校で、そこで工夫して学習が行われており、それ自体を否定するものではありません。ただ、将来、老朽化した学校を建て替える際には、せっかく学校を建て替えるのであれば、それを機に一定の学校規模となるよう整備することで、子どもたちにとってより良い教育環境を整備していきたいと考えておりますのでご理解ください。
- ② 説明会のPRについては、市広報のほか、SNS やTetoruという保護者向けの連絡アプリも活用しながら周知しましたが、残念ながら若い世代の多数の参加にはつながりませんでした。ただ、今日の説明会はキックオフ的な説明会で、今日を皮切りに今後各地区での説明会も重ねていきますので、組回覧など他の手法も活用しながら、なるべく多くのかたに参加いただけるよう検討してまいります。

● 事務局

今後 地区説明会を2月15日(土)に千代田地区、2月22日(土)に祖父江地区、3月8日(土)に平和地区の各中学校で開催する旨を説明。

● 教育部長あいさつ

(午前 11 時55分終了)